

年 組 名前：

甲府一高新聞のバックナンバーを見て活動を振り返る新聞部員
＝甲府一高

伝統の「一高新聞」休刊

甲府一高新聞部による「甲府一高新聞」が、7月に発行した第308号を最後に休刊している。現在の部員4人は全員3年生で、1、2年生が集まらず活動が難しくなったため。

創刊78年に及ぶ伝統の学校新聞が存続の岐路に立たされてお
り、現部員は「形は変わっても、今の一高を伝える新聞が続
いてほしい」と復刊を願っている。
〈桑原久美子〉

3年生部員のみで活動困難 「形変え復刊」後輩に期待

甲府一高新聞は1947年5月20日創刊。学園祭や遠行遠足などの行事を取材し、年5～6回ほど刊行してきた。A3判の白黒印刷というスタイルを守り、全校生徒や希望者に配布。近年は学校ホームページでも公開している。

2025年度は1、2年生が入部せず、3年生4人で活動してきた。7月まで状況は変わらず、引退時期も近いための活動を続けられずと判断。8月以降の休刊を決めた。

現部員が2年生だった昨年10月には300号を突破し、記念特集号を発行。日本国憲法が施行された年に発行された創刊号から、100号（1965年）、200号（2008年）の紙面を振り返った。高橋玲衣部長は「長い歴史ある新聞が、私たちの代で途切れてしまうのは残念」と話す。

現部員は、新聞よりのスマートフォンで情報に触れる機会が多いという世代。部員の山本さんは

甲府一高新聞は取材から記事執筆、校正などの過程がある新聞作りを通してSNS（交流サイト）などで気軽に情報発信できるが、多くの手順を踏んで発行されるオールドメディアだからこそ新聞の信頼性を感じるようになったと話す。

写真を取り、文章を書くことが好きという坂江和香副部長は、「学校行事に取材する立場で参加すること、違う角度からの気付きや魅力を感じられた」と話す。

甲府一高新聞は08～10年にも部員が集まらず一時休刊し、有志により復活した歴史がある。部員の伴野朱香さんは後輩たちによる復刊に期待し、「二度途切れたものを再開するのなら、何か変化を取り入れてもいいのでは」と話す。高橋部長は「後輩たちにはその代での特色を出して、『今の一高』を伝える新聞を出してくれるといい」と話している。



山本 昂輝
桑原久美子

(2025年11月13日付 山梨日日新聞17面)

問1 「甲府一高新聞」が、休刊している理由を教えてください。

.....

問2 部員の山本さんは、オールドメディアの良さを、どのように話していますか。

.....

問3 復活させるには、どのような取り組みが必要であると、あなたは、考えますか。

.....

.....